集中豪雨で市内の幹線道路に被害

1時間雨量59.5ミリを記録!!

梅雨明け直前の7月3日から7日にかけて日本海に梅雨前線が停滞し、雷を伴う非常に激しい雨が降り、土砂災害警戒情報や各河川に水防警報が発表され、市内の道路にも被害が発生しました。

豪雨の概況

下関地方気象台によると、萩市土原では、10分間雨量（7月3日午後0時21分～）が23ミリ（観測史上3位）、1時間雨量（7月7日午前3時5分～）は59・5ミリ（観測史上10位）を観測しました。

雨量は極端に多くはないですが、数時間で100ミリ程度の豪雨が連日発生したため、過去に経験のない場所で災害が発生しました。

また、県土木防災情報システムでも、市内全域で1時間雨量30～60ミリの豪雨を観測しました。

県道萩篠生線（椿東中ノ倉）の道台崩落

土砂災害により幹線道路が寸断

この大雨の影響で、萩～福栄を結ぶ県道11号萩篠生線が椿東中ノ倉の道台崩落により、また国道262号が川上白馬の土砂崩れにより、7月24日まで全面通行止めの交通規制により、車両の通行だけでなく、定期バス路線の経路変更や一部区間の運休、清掃工場へのゴミの搬入など、日常生活（買物、通勤、通学、通院）や物流、観光等への被害が拡大しました。

国道262号（川上白馬）の土砂崩れ

一方、国道191号は阿武町宇田～木与間や、大規模林道波佐阿武線（通称スーパー林道）をはじめ、山間部と沿岸部を結ぶ主要な道路でも土砂災害のおそれがあるため通行止めになり、一時的に市内各地域の通行が分断されました。

また、市街地でも道路冠水により国道191号の萩東中学校付近等で通行規制が実施されました。

ライフラインへの影響

相島での停電のほか、山陰本線への土砂流入（玉江～三見間）により東萩駅から長門市駅間が運転見合わせや代行輸送となりました。また、7日早朝に市道大渡吉田線で土砂崩れが発生し、萩やすらぎ苑斎場が2日間使用できなくなるなど市民生活にも大きな影響が出ました。

市の災害対応

この度の災害を受けて、市では防災情報の伝達収集（危険箇所監視を含む）や応急活動を実施するとともに、幹線道路の早期復旧に向けて県に強く要請しています。

市道大渡吉田線（やすらぎ苑斎場）の土砂崩れ

萩篠生線は7月25日から片側交互通行

県道11号萩篠生線（椿東中の倉地内）の全面通行止めは、7月25日から片側交互通行に規制変更されました。

●事故防止のため仮設信号は必ず守ってください。

●追突事故を防止するため、現場付近の見通しの悪い箇所やカーブ等では十分に減速してください。

◆災害時は冷静な対応を

1時間雨量が50ミリを超える豪雨の場合、道路側溝だけでは排水が困難です。また、降雨中に土のうを設置しても効果がありません。雨水対策（側溝清掃や土のう設置）は周辺の皆さんと協力して事前に行い、増水が始まったら、貴重品や非常用品を持って2階に退避（垂直避難）等の命を守る行動をお願いします。

◆冠水状況の記録提供のお願い

道路の冠水や災害の状況を携帯電話やデジタルカメラで記録されている方は、撮影日時と場所を明記して、防災安全課にメール（bousai@city.hagi.lg.jp）でご提供ください。

提供いただいた画像や映像は今後の災害対応の資料として扱い、一般に公開するものではありません。

■問い合わせ　防災安全課（25・3808）